

三重県立総合医療センター 研修医 2 年目 福井 康大

普段は三重県立総合医療センターで勤めておりますが、今年度から貴院での研修の機会をいただき、1 か月研修をさせて頂きました。紀南病院での1 ヶ月は想像していた以上に刺激的で、多くの貴重な経験をさせて頂きました。救急外来や内科初診外来での診察から入院加療および退院に至るまでの診療を経験させていただく中で、指導医の増田先生と相談しながら検査や治療を行い内科における入院患者の管理の難しさを学びました。複雑な病態の中で、社会的な背景を考慮し、各個人にとって何が最善かを学ぶ良い機会でした。また、ひとりの患者様の退院やその後の生活は、医師や看護師だけでなく、MSW やケアマネージャー、退院先となる施設や病院スタッフといった多くの職種が関わり連携していることで成り立っていくことも再度痛感致しました。さらに、医療資源の限られた地域でそれぞれの病院が役割を果たし、急性期病院と連携を図る医療を通じて、人を診るだけでなく地域を診る医療の大切さを身に染みて感じ、今までとは違う医療の側面を知ることができました。今回学び感じたことや経験を活かして、貢献していけるよう精進していきます。多大なご指導をいただいた増田先生をはじめとする先生方、お世話になったスタッフの皆様、1 ヶ月間本当にありがとうございました。

伊勢赤十字病院 研修医 2 年目 杉本 賢政

紀南病院で研修させていただきまず初めに驚いたことは、入院している患者さんの年齢が想像以上に高いことでした。ある日の私の担当患者の平均年齢は89才11ヶ月と日本の平均寿命を超えていました。当初は東紀州の高齢化恐るべし！程度にしか思っていませんでした。しかし研修が進むにつれ、担当患者さんの病状が落ち着くと別の病棟に移動することがあったり、病棟によってスタッフの人数に濃淡があることに気づき、病棟の種類の違いが一つの要因になっていることを知りました。紀南病院は一般病棟だけでなく、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟を併せ持っています。急性期治療を終えたが引き続き医療介入が必要な方はそのまま継続して一定期間入院させておける仕組みが整っていました。これまで意識することのなかった各病棟の役割や違いを知り、急性期治療の先の医療について理解を深めることができましたと思います。また院内での研修以外にも、紀南病院を退院し在宅医療を行うことになった患者さんの自宅訪問、神川へき地診療所への同行、病院間の転院搬送時の救急車同乗などさせて頂きました。患者さん、家族、救急隊の方などとの交流を通じこの地域の医療提供体制や生活様式の一部を知ることができました。最後になりますが、ご指導いただきました佐羽先生はじめ、お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

三重大学医学部附属病院 研修医 2 年目 長嶋 一訓

紀南病院での7ヶ月の研修があっという間に終わってしまいました。内科研修では呼吸器疾患や糖尿病を中心に診させて頂き、入院から退院に至るまでの治療方針などを任せて頂きました。また、非常に多くの転院搬送を経験させて頂き、自分1人しかいない救急車で何ができるのかを考える良い経験になりました。診療所・離島研修では地元民ながら初めて行く場所が多く、船で輸液を抱えて患者搬送したあの経験はとても印象に残ってます。また、紀南病院には知り合いも多く、色々な人から声をかけて頂き、とても働きやすかったです。勝手が分からず戸惑い、焦った経験もありますが、非常に多くの疾患を経験させて頂きました。不慣れな部分も多々あり、皆様には多大なるご迷惑をおかけしたかもしれませんが、有り難うございました。また、今後紀南病院で働く機会があると思いますのでその際は宜しくお願いします。

